

行政事業レビュー公開プロセス(6月22日)

(事業名)高齢者の日常生活支援の推進に必要な経費

評価結果

事業全体の抜本的改善

廃止	2	人
事業全体の抜本的改善	3	人
事業内容の一部改善	0	人
現状通り	0	人

※ 上山委員は、「厚生労働省所管1000以上の事業の中から本事業が公開プロセス対象事業として選択された理由につき厚生労働省側から十分な説明が得られないために公開プロセスに付すべき事業として議論するのは適切でない」として退席、棄権された。

<とりまとめコメント>

本事業が開始された昭和38年度と比べて百歳を迎える高齢者が大幅に増加し、かつ、今後もさらなる増加が見込まれることにかんがみ、見直し案をこえて、銀杯の贈呈は廃止し、国として長寿を祝い、社会発展への寄与に感謝するに当たり、今後はお祝い状の贈呈のみの事業とすることが必要。

また、本事業のレビューを機会として、厚生労働省において長年続いている事業を洗い出し、本当に国がやるべき事業なのかなどについて検討することが必要。

<具体的なコメント>

○事業の課題や問題点

- ・ 長期継続事業のため見直し。
- ・ 対象者当初135/9600万→3万人弱と大幅な対象者増による大幅UP。
- ・ 老人福祉法の趣旨からして、銀杯の贈呈そのものの意義が認められないのではないかと。お祝い状の贈呈のみで、同制度の継続を相当と考えます。
- ・ 百歳で銀杯贈呈という事業に必然性がない。
- ・ 百歳が3万人に上る高齢社会において事業の妥当性そのものが疑問、効果に「広く国民が高齢者の福祉についての関心と理解を深め」るについても定かではない。

○評価を選択した理由・根拠

- ・ 事業目的は理解したうえで、銀杯＋祝い状、銀杯のみ、祝い状のみ、別のもの等手法は様々ある。
- ・ 今後、100歳人口が増加しむこう10年で数10億となる。他の必要事業に今回を機にふりかえるべき。
- ・ 公共性がない。
- ・ 本事業に限らず、古く検証も不十分なまま惰性的に続けられている事業についても不断の見直しが必要。

○改善の手法や事業見直しの方向性

- ・ 銀杯ありきではなく、祝い状のみ・別のものなど発想の転換も必要。
- ・ 外部の知恵を活用すること。
- ・ 高齢者に敬意を伝えることに意義はある。銀杯を廃し、賞状の手渡しが望ましい
- ・ 事業は廃止して、実施の是非自体は自治体に任せる。

○その他

-